

関東支部の創立年月日について、これまで昭和28年(1953年)11月25日とされてきました。ところが60周年にあたり、文献を探したところ、昭和28年11月28日が正しいのではないかと、という見方が出てきました。

11月25日の記述は、昭和58年に会報8号に掲載された「関東支部発展史」にあります。見中1回の寺田恒次氏が関東支部創立30周年にあたり、執筆したものです。

戦前から続いていた在京の同窓生の集まりが戦争で中断し、昭和25年から再開されて昭和28年に支部創立に至った経緯を記しています。

「昭和28年11月25日」として、この日は専売公社葬会館に於て見中野田南高同窓会関東支部の創立記念日になるので、これが設立の経緯については些か枝葉を付して錦上添花を添えて見たいと思う」として、明確に25日としています。

この「発展史」が長らく、創立記念日の根拠となってきたようです。これ以前に25日とした文献は見つかっていません。

平成4年、鈴木龍太支部長(中16回)は会報17号で次のように書いています。

「翻って本支部は、仄聞するところによりますと、太平洋戦争前、見中一回生有志の方々の集まりに端を発し、戦後昭和二四年から高卒男子、同二七年以降は高卒女子も加わって愈々機が熟し、尾崎先生の御趣旨を体して昭和二八年一月二十五日に設立されました」

「仄聞(そくぶん)するところによりますと」とあるように、伝言または文献によった情報であり、「発展史」が根拠となった可能性がります。

なお寺田氏の「発展史」は平成9

年の会報22号に再掲載されています。会報で25日とされたのは、以上です。

平成14年の会報27号では、高田岩男支部長(高2回)が「関東支部創立五十周年を迎えて」という挨拶文のなかで「一九五三年(昭和28)十一月二十四日最初の支部総会・懇親会が開かれました」と書いています

が、誤記の可能性がります。高田氏が平成13年に書いた宛先不明の原稿「磐田南高同窓の皆さんへ」には、「支部総会・懇親会は、昭和二八年(一九五三)一月二十五日に、創立発会式の総会を開いてより四九回目……」という記述がります。

「発展史」を受けて、25日と考えて

昭和28年11月28日を昭和28年11月28日に特定できると考えました。そこまでの経緯を説明いたします。

## 昭和28年11月28日 創立年月日と定めた経緯 「尾崎楠馬先生遺稿集」の 記述を採用

いた可能性が高いと見られます。

昨年(平成24年)冬、関東支部名義の銀行口座開設にあたり、創立年月日の明記が必要になりました。過去の会報を調べたところ、第8号に「発展史」が掲載されていることがわかり、創立は昭和28年11月25日、平成25年が60周年になることがわかりました。

そこで60周年記念事業を実施することになり、準備を進めていたところ、同窓会本部の櫻井孝順会長(高17回)が関東支部会報に寄せた挨拶文のなかで、「尾崎楠馬先生遺稿集」に尾崎楠馬初代校長が関東支部創立に関わった記述があることがわかり

ました。

「遺稿集」は尾崎先生の死去8年後の昭和37年、母校におかれた「刊行会」が編集・発行したもので、尾崎先生が書いた漢詩、和歌、俳句、書簡のほか、弔辞、追想で構成されています。50年以上前の書物であり、その存在はほとんど知られていませんでした。

今年6月に入手した「遺稿集」では、関東支部の創立年月日を一貫して昭和28年11月28日としています。

まずは、創立総会の準備を担い、尾崎先生との連絡役を務めた玉沢喜代志氏(中3回)に宛てた尾崎先生の封書です。昭和28年10月21日付で、「十一月二十七日迄には本複製わし

があります。

「昭和二十八年十一月二十八日に開催が予定されていた磐田南高同窓会関東支部再結成大会に、先生は十一月二十四日、手術前日重態の病床にあって祝辞を執筆され、草稿を大会幹事の玉沢氏に託された」

ここでは、総会予定日が28日と明記されています。

尾崎先生は治療の甲斐なく、翌29年2月5日に逝去され、21日に同窓会葬が執り行われました。「遺稿集」には校長、同窓会長、関東支部長の弔辞が収録されています。以下、初代関東支部長の近藤富士雄氏(中1回)の弔辞です。

「支部大会は先生の御意思に基づき、同月(引用者注)11月二十八日、坐らるべき中心の座をあげて、一抹の寂しさを蔵しながらも盛大に開催せられたのであります」

「席上、松下君(引用者注)松下良司・東大木外科外来医長)また起つて、術後(引用者注)手術は25日)三日の患者をおいて任にあることにより予後の良好は御想像願いたいと、簡潔に挨拶され……」

総会が予定通り11月28日に開かれ、担当医の松下良司氏(中3回)も25日の手術から3日後にもかかわらず出席したと解釈できます。

「遺稿集」の方が「発展史」より早く書かれ、関係者の記憶が新しいうえ、書簡や弔辞などの資料をもとにしての公式文書であることから、「遺稿集」の28日の方が確度が高いと考えられます。しかし「発展史」も寺田氏が「遺稿集」を読んで

いる可能性は排除できず、なぜあえて25日としたのかは不明です。

曜日調べてみますと、11月25日は水曜日、28日は土曜日です。「発展史」によると昭和25年、昭和26

にも会合が開かれていますが、「発展史」の日付によると、いずれも土曜日です。平日より土曜日の方が可能性が高いと思われれます。しかし、会報1号、会報2号によると昭和50年、昭和51年の総会はいずれも木曜日で、総会を土曜日の昼と決めたのは昭和55年からです。曜日は決め手に欠けます。

ただ「発展史」には誤植とみられる箇所がいくつかあります。

・「昭和二十四年初めて高番一回男女二二〇名の卒業生」→女子が卒業したのは27年(会報22号の再掲載では訂正)

・「昭和25年(の会合の場所)東郷の江知勝」→本郷(再掲載では訂正)

・「昭和26年(の会合の場所)四谷の昌平館」→祥平館(昌平館は神田。「遺稿集」では祥平館)

・「昭和28年(の創立総会の場所)専売公社葬会館に於て」→葬会館は昭和42年竣工。「遺稿集」では専売公社美竹会館

・「初代支部長には一回の近藤富士」→富士雄(再掲載では訂正)

ささいな箇所ではありますが、「発展史」が記憶を交えて書いている可能性がります。創立から30年後に書かれた文章ですので、やむを得ないことだと思われれます。会報で関東支部創立のエピソードを描いた唯一の文章で、貴重な文献であることは変わりありません。

以上から総合的に判断して、創立年月日を昭和28年11月28日に特定できると考えます。60周年にあたる平成25年7月20日の支部幹事会で了解を得ました。今後、さらに信憑性の高い一次資料の発見が待たれます。

28日が疑わしい資料が出てきたら、改めて歴史を見つめ直していただければと思います。

(文責・津川悟)

### 題休話閑 Special content 1